

地域新聞『明日にむかって』について

発行：社会福祉法人陽光会（本部：陽光保育園 板橋区大谷口上町 23-1）

*社会福祉法人陽光会は、陽光保育園の他、練馬区立保育園2園と、板橋区立小学校のあいキッズ（放課後児童クラブ+放課後子ども教室）1か所を運営受託

編集：「明日にむかって」編集委員会 判型：A3 判両面 無料配布

■概要

○あゆみ

- ・1987年11月発刊。1（87年11月）～6号（89年10月刊）は、陽光保育園創立40周年記念事業の一環として発行。11号（92年12月刊）までは不定期刊。
- ・1993年度の12号から年3回刊行。小中学校の1学期（夏）、2学期（秋～冬）、3学期（冬～春）のどこか。
- ・「地域とともに」と銘打たれたのは第9号（92年1月刊）から。以後、「地域新聞」として陽光保育園関係者ばかりでなく、地域にも配布。
- ・最新号は2020年10月刊の92号。コロナ禍のなかで、2020年は夏の発行は見送り。年度内に93号を発行予定。1993年以来初めて年2回刊となる。

○発行部数

当初は、在園・卒園保護者を中心に陽光保育園関係者向けに小部数発行。発行部数は不明。地域新聞として定期的に発行するようになってから5,000部程度で推移。2010年代に6,000部に。しかし、2020年度は再び5,000部に。

○内容

- ・**トップ記事**：保育行政・保育制度の課題や問題点、陽光会の保育について、学習会・講演会の報告、園舎の改修・改築などについて、公設民営保育園などの受託について、園長交替の挨拶、陽光保育園創立50周年、60周年について、など
- ・**社会福祉法人陽光会近況**：4事業所の近況報告（ほぼ毎回掲載）
- ・**コラム**：「子どもの世界」（口頭詩）、各事業所施設長によるエッセイ（タイトルなし）、他
- ・**シリーズもの**：「お父さんの出番です」（保護者＝父親に執筆依頼）、「シリーズ戦争と私」（主に戦争体験者に執筆依頼）
- ・**特集**：子どもの発達と保育、陽光会の保育など
- ・**ご案内・お知らせなど**：4事業所の行事の案内、地域向け催しの案内、一時保育の案内など

■「シリーズ戦争と私」について

○**発端と経緯**：2003年、陽光保育園関係者行きつけの居酒屋の女将（おかみ）から戦時中の体験談を聞きました。板橋にも空襲があり、恐怖におびえたこと、その経験を書いていたのが、そもそものきっかけでした。ちょうどイラク戦争が勃発し、世界中で反対のデモが行われていたころでした。

翻って、第二次大戦中にも一人ひとりの生活があったことを忘れてはなりません。年々減って

はいるものの、戦争体験者はまだ周囲にいらっしゃるはず、その声を少しでも多く残しておきたいと、「シリーズ戦争と私」は始まりました。

なるべく身近な方から、保護者や保育者の祖父母、知人の知人など、さまざまな方に声をかけました。その結果、当時の社会福祉法人陽光会の理事をはじめ、ぜひ書きたいという方もいて、次々と書き手の輪が広がっていきました。

居酒屋の女将の体験談を掲載した 2003 年 3 月刊の 41 号以来、2020 年 10 月刊の 92 号までこのシリーズはほとんど欠かさず掲載されています（50 号、88 号のみ紙面の都合で掲載なし）。なかには番外編として、地域で平和運動に携わっている方などの声を載せた号（59、77、78 号）、核拡散防止条約（NTP）再検討会議ニューヨーク行動に参加した陽光保育園関係者の声を載せた号（62 号）などもありましたが、そのほとんどが地域に住む市井の人々の戦争体験談です。これまでに 50 人以上の方に執筆していただきましたが、すでに鬼籍に入られた方も少なくありません。戦争体験者は徐々に減り、今後いつまでこのシリーズを続けられるかわかりませんが、できるかぎり体験者の声を届けていきたいと考えています。

○内容：多いのは、空襲の体験、戦禍を逃れて疎開したこと、疎開先での体験、軍国少年だったこと、学徒動員や勤労奉仕にかりだされたことなどのほか、シベリア抑留の体験談もあり、年齢によって体験談もさまざまですが、共通しているのは、食糧難で食べるものに苦労したこと、そして戦後の暮らしも大変だったけど、二度と戦争はしないという憲法と平和な暮らしはこれからも守っていかなければいけないというみなさんの想いです。

また、生まれたのは戦後でも、今でも戦争の傷跡が癒えない在日の方の報告もあり、深く心に突き刺さりました。本日はその一編をご紹介します。

○反響：地域の戦争体験者の声を今に生きる人々に届けたいという思いで始まったシリーズですが、同時代を生きた年配の方からの反響が大きく、「毎回このシリーズを楽しみにしている」と、わざわざ電話をしてこられた方もいらっしゃるそうです。そういった声を励みに続けてきましたが、戦争を体験していない戦後生まれ、なかでも若い方々に受けとめてほしいと願っています。

*もし関心をもっていただける方がいらっしゃれば、地域新聞『明日にむかって』は、社会福祉法人陽光会 HP に掲載されていますので、ご覧ください。

<http://youkou-kai.com>